



大正二年四月廿三日印刷
 大正二年四月廿五日發行

〔定價三錢〕

長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地
 編纂兼發行人 安井正夫
 上水内郡岸田村字中御所八十番地
 印刷者 田中彌助
 長野市西后町乙廿一番地
 印刷所 長野新聞社活版部
 長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地
 發行所 蘆澤書店

○岐蘇林友
 目次

稟告 學術 海岸砂防保護樹
 記事 學校便り
 寄宿舎便り
 校友消息
 和歌 數首
 雜報 片々

新築校舍落成式 舉行に就て會員 諸君に稟告す

拜啓時下柳暗花明の好時節各位益々御多祥の段奉賀候陳者母校新築工事は去る明治四十二年起工の處其後着々進捗愈々本年九月を以て全く竣工と可相成都合に有之候願れば明治廿一年以來彼の狹隘不完全なる舊校舍に於て幾多の不便と不利とを忍び來り候は既に諸君の熟知せらるる所と存候然るに母校の發展と時勢の進運とは到底永く斯かる状

態に停るを許さず遂に新に地を新開村にトし數万の巨資と五年の歲月とを費して茲に始めて完全なる校舍の設立を見るに至りし次第にて候惟ふに舊校舍は元來山林學校として設立せられしものにては無之當初福島小學校として建築せられしものを假用せしに過ぎず隨て母校今回の新築は一面より見て眞實の翹建とも云ふべく加之母校が十有餘年所在の福嶋町を去りて新開村の地籍に移轉するを思ひば母校の歴史上實に一新時期を劃するものご可申候且又本年度入學者の開校以來未曾有の多數に上りし

が如きも校舍の完成と相俟て母校が向上發展の一大機運に逢着せるを證するものに有之我輩同人の深く慶幸とする所に御座候今や母校に於ては此好機會を利用し來る十月中旬を以て盛大なる落成式舉行の筈に内定致居候に就ては本會に於ても間接に母校の事業を助成し一は以て母校歴史上の一新記録として永久に之を記念すると同時に一は以て母校發展の一大關鍵と致度此に大に落成式資金を募集致候何卒會員諸君奮て此舉に賛同せられ本會が母校に對する協賛の目的を完全に遂行せしめられ度冀望

して居るが砂地の地形其他の状況に依りては却つて此のハンノキ、ヤナギ、或はグミを植付けた方が余程優つて居る場合が少くないのである。

ハンノキは特に他樹の生せざる海岸の露出せる多湿の砂地にも能く生じ然かも盛なる生長をなすのである殊に砂丘と砂丘との間に生ずる低地にして動もすると雨水の停滞するが如き砂地には道のニセアカチアもチムも殆ど不可能と云つても良い位其効果がないのである併し亦た掘開して停滞水を導き出すにしても多大の勢力と費用を要する其割合に効果が少ないので之れ亦一考を要すべきである即ちかくの如き砂地に於ては須くハンノキを植栽すべきである如何となれば砂の移動は砂からず地表の高低障害物の如何に左右されるもので殊にハンノキは多湿に耐ふる樹であるからである即ち砂の移動少なき低湿地に植栽されたるハンノキは飛砂に對し恰も障害物となるのである。

ここでハンノキを植栽されたる砂地は初め低湿地であつても風の爲に砂粒はハンノキの前後特に其風下に於て著しく堆積されるのである故を以て斯かる低湿砂地には耐多湿樹種にして具砂粒集中作用のあるハンノキを植へ付け速に適湿なる砂地となし防砂林の主林木たる黒松を植栽し得る状態に導くことの最も得策なることを信するのである、能美郡御幸村、河北郡高松村、羽咋郡南北大海末森、各村の海岸飛砂地を踏査し

て現に如上の事實を確め得たのである。海岸砂地に注ぐ河川は殆ど砂害の原因の大部分をなしてゐる殊に其の河川の吐き口に於ける砂地の砂防は至難中の至難事である一朝大雨あれば忽にして其附近一帯河海となりて浸水し早魃あれば乾枯して荒れたる河原に變ずるのでチムは勿論保護樹の王たるニセアカチアも其獨特の性能を發揮し得ず随つて其の効果が少いのである然るに獨りヤナギは斯くの如き修羅場裡に於て能く早魃にも堪へ亦洪水にも屈することなく隆々(柳々?)として榮え枯損することなく臥薪嘗膽忍耐以て他日の隆盛を期することが出来るのである殊に河口及び其附近の崩壊を防止する等護岸砂防工用として最も効果のあるものである尙又ヤナギは低窪地の泥水若しくは腐敗せる汚水を改良して土地及び水を新鮮ならしめ之れに良草を生せしむるの効がある是れヤナギは汚水を分解して汚物を吸収し以て新鮮清浄ならしむるからである故にヤナギは又衛生上至大の効を有するものと謂はざるを得ないのである能美郡湊村はりの小舞子海水浴場風致のため又其内部耕地保護のために先年來砂防林の經營に腐心してゐるのであるが昨春其の豫備的行爲として實施したる砂防質垣の抗は悉く此のヤナギを利用したのである然るに質垣は砂粒の集中する處となり砂丘を生じたる爲忽ちにして埋められ僅に上部を地上に現はして居るのである而して其杭

たるヤナギは總て萌芽し盛に生長して居るので一見其の杭より萌芽したるものなるや將た植栽したるものなるやの識別に苦しむのである尤も此れは最後まで此の状態を保持し得るものなるや否やは未知數に屬する問題なるべしと雖も目下の處では充分囑望の價値あるものと信するのであるグミは上長生育の點に於てはニセアカチアチム等とは同日の談ではないのであるが其活着良好にして迅速に枝葉繁茂し以て適度の砂丘を形成することの早きと殊に其の繁茂の状態が他の保護樹の凡てが悉く畫直的なるに反し水平的に發達し地濕を保ち得るの効ある事は此のグミ獨特の性能と謂つべきである殊に彼の海濱の砂丘上にあるマキ、グミ、は自然界の營力に抵抗して一の作用をなすのである即ち彼の砂丘なるものは其初めは風力によりて絶えず内地へ向つて進行し海邊の小屋を没し家を埋むるに至るものにして所謂移動砂丘なれども其高く堆積するに至れば遂に其進行を停止し所謂固定砂丘となるものである而して砂丘植物たるグミの一且移動砂丘の上に繁茂するや其の枝葉水平的發達を爲し以て土砂を結束し此に一つの植物群落を作り以て或は海風の來りて此處より更に内地に向つて細砂を吹き飛ばすことなからしめ或は其の吹き送らるる砂粒を此に止めて一の堤防を築くに至り移動砂丘をして比較的短日月の間に變じて固定砂丘となることを助るのである河北郡にあ

校友會

の至りに不堪候 敬具
大正二年四月

新校舍落成式資金募集要項
一、新校舍落成式を記念せんが爲資金を募集す
二、出資額は一人に就き最低壹圓とす
(大正二年二月校友會總會の決議に基づく)

- 三、記念事業左の如し
- イ、林業教育展覽會
- ロ、記念印刷物發行
- ハ、運動會
- ニ、祝賀會
- ホ、其他
- 四、出資申込期限七月三十一日
- 五、納金期限九月三十日
- 六、送金は凡て校長安藤時雄宛の事(振替口座東京一七六〇番安藤時雄)
- 七、會員の領收は凡て本誌上に掲載するを以て一々領收證を發送せず

海岸砂防護樹としてのハンノキヤナギ及びグミ

金澤 寺尾 敬 二
萱科植物の根に根瘤バクテリアと共生の結果出来る小瘤のある事は誰れも知れて居る

が、未だ萱科以外の植物根に之に類したるものあることを知つて居る人は少なからうと思ふのである。

千九百十二年(明治四十五年)此事に關してポットムレー教授は楊柳科の一種タチヤナギに於ける根瘤につき又スプラット嬢は樺木科のヤハンノキ、胡頹子科のナツグミに於ける根瘤につき夫々報告されたのである。

楊柳科の根瘤は側根の變形したので第一次的の根瘤は分枝して第二次の根瘤塊を生ずるのである根の中心維管束は此根瘤の先端から突出して毛状を呈して居るのである、根瘤は四つの帯を區別することが出来るのである一、は頂端分生部、二、は侵入絲部、三、は細菌帯で主として大なる細胞から成り根瘤の皮部を形成し細胞内に多數のバクテリアが居るのである、四、は基部で含菌細胞無く多數の油滴を含む細胞から成つて居る、根瘤が分岐して充分成長するごとクテリアは細菌帯から消え失せ基部が漸次伸長し來つて此帯を包んでしまふのであるポットムレー氏は此のバクテリアと同じものであることを發見したのである。

尙ほ楊柳科植物は根瘤バクテリア無く而かも窒素分に乏しい土壤にては充分成長し得ざること及び斯かる際に根瘤バクテリアを與へると根に澤山の根瘤が生じ勢力旺盛となり充分發育し得ること萱科に於けると同一なることをも觀察されたのであるハンノ

キ及びグミの類に於ても同様で根瘤は側根から出来而かも二又は三文分岐に依り増殖して行くのである之れも矢張り同一の根瘤バクテリアの共生で出来るのでバクテリアは根の皮部に侵入し茲で繁殖し殊にグミにはバクテリアは往々絲狀寒天質をなせる皮膜形成をやるのである而してバクテリアの刺戟で其部の根は球狀に膨大し第一次の根瘤が出来るのであるバクテリアは多形であつて或は桿菌狀或は球菌狀等一樣でない而して球菌狀のものは確かに有効含水炭素の缺乏及び外境の境遇が變化した際に出來るらしく、一般は桿菌狀のものよりは抵抗力が強い何れも空氣中から遊離窒素を攝取し利用することは萱科植物に於ける場合と同じである。

根瘤バクテリアの學名は昔はリゾビウムレグミノサールムと稱せられ近頃ではパチルス、ラヂイクロアと變更され更にフンイドモナリス、ラヂイクロアとも唱へられて居る而して其中には數多の變種(或は寧ろ種)ありて萱科植物の各種に對し夫々固有の變種がある然し多少彼此相通し得る變種もあるとの事である。

如斯ハンノキ、ヤナギ、及びグミはチム、ニセアカチア等の萱科植物と同じく根瘤バクテリアの作用に依り盛んに生長することが發見されたのである、而して我が加能二州に於ては海岸飛砂地の防砂用保護樹として主としてニセアカチア及びチムを奨励

る高松、七塚、宇野尻等の各村、羽昨郡に於ける南北大海末森、樋川、鹿濱、羽昨、中甘田、高濱等の各町村、鳳至郡野村等の海岸を踏査すると此のグミが盛に瀾漫して居るので此の樹特有の生長状態と其の砂丘形成の關係が自ら首肯し得らるゝのである。

尤も茲で述べたのはハンノキ、ヤナギ及びグミがニセアカシア、チム、フデ、ハギ等の荳科植物と同じく根瘤バクテリアの作用あること、海岸飛砂地に於ける保護樹として各々特有の性能を具備して居ることを述べたのに過ぎないのであるが尙ほ此れ以外保護樹としては昔時土佐の有名なる野中兼山が飛砂地の封作用として植はられたと稱するハマゾウといふ樹であるのである、此樹は能く砂中に埋没して居ながら盛に生長し其の幹根の延びて數十間に達し遂に一面に飛砂地を覆ふに至るので自然的飛砂工事とも稱し得べく甚だ重寶な樹である斯くの如く保護樹としての樹種が多々有るので随つて此等の各樹の特性及び將來防砂林の主林木たる黒松との關係等の研究は趣味もあり且亦必要なる事と信するのである。(完)

學校記事

○學年末試験 三月十三日に始まる該試験は二十日終了二十三日午後に至りて卒業生の成績發表を見二十四日正午一、二年生

進級成績の發表ありたり ○高木先生告別式 三月二十三日高木先生告別の式を舉ぐ同先生は明治四十一年本校に奉職せられてより國語漢文の教授を擔當せられ舎監として永く寄宿舎の雜務に執掌し又校友會に於ては雜誌部顧問となり盡瘁せられし事多大なりしが今回學校組織の變更により休職せらるゝ事となりしは惜むべく學校の不幸と云ふべし先生年齒既に耳順に近し冀くは高臥加餐せられよ ○證書授與式 三月廿五日午前十時本校第十回卒業證書授與式舉行せらる生徒職員來賓の順序にて一同着席するや安藤校長舉式の旨を告げ勸語を捧讀し次に七宮教頭本年度學事の報告をなし次いで校長は左記三十三名の卒業生に對し夫々證書を授與し各級優等生皆勤生には賞狀を附與して一場の訓辭を與へ知事代理として臨校せられたる森本事務官は告辭を朗讀し次に平川部長を始めとして清水部長、新聞記者、父兄保證人等の祝辭希望演說等あり一二年生總代關琴義君送辭を朗讀し最後に卒業生總代坂田勘太郎君の答辭朗讀ありて式を閉ぢぬ當日來賓の主なるものは前記の外松田技師、三澤判事、松岡福嶋町長、下村新開村長等無慮數十名に上り特に父兄保證人として卒業生岡山益善君の祖父益徹氏が七十の老齡を以て郷里石川縣より遙々來校參列せられたるは一際衆目を惹きぬ式後卒業生及職員は紀念の撮影をなせり知事告辭在校生總代送

辭及、卒業生總代答辭左の如し 側根

告辭

本會山林學校卒業生諸子ニ告グ、抑モ林業ノ事タル本邦古來重要ナル産業ニシテ之ガ思想ノ啓發ト事業ノ獎勵トハ蓋シ方今ノ急務タリ諸子螢雪多年業茲ニ卒リ將ニ出デ、事ニ從ハントス諸子ノ前途眞ニ多望ナリト謂フベシ、惟フニ近時社會ノ風潮ハ動モスレバ勤勞ヲ避ケ實務ヲ輕ンズルノ弊ナキニ非ズ、諸子須ク思ヒテ茲ニ致シ實踐躬行以テ時弊ノ矯正ニ努メ斯業ノ發展ニ貢獻セムコトヲ期スベシ、洵ニ克ク斯クノ如クムバ尙クハ本校教養ノ趣旨ニ副フコトヲ得ン、諸子夫レ旃ヲ勉メヨ

送辭

荒涼タル三冬既ニ盡キ春風春水將ニ一時ニ至ラントスルノ時茲ニ本校第十回卒業證書授與ノ盛典ヲ舉行セラル、思フニ鳥啼キ花笑フノ佳辰ハ常ニ霜辛雪苦ヲ經テ後ニ至リ手ノ舞ヒ足ノ踏ムヲ知ラザルノ樂事ハ必ズ堅忍不拔ノ精神ニヨリテ始メテ之レニ到達スルヲ得ベシ、兄等及ヲ負ヒテ本校ニ學ブコト實ニ三星霜具サニ螢雪ノ勞ヲ積ミ今ヤ本校ノ課程ヲ卒ヘ潑刺タル元氣ト洋洋タル希望トヲ抱キテ我が

大正二年三月廿五日 長野縣知事 正四位勳二等 千葉貞幹

林業界ニ雄飛ヲ試ミラントス、兄等ノ光榮ト得意ト實ニ察スルニ餘リアリ抑モ吾林業界ノ現狀ヲ顧ミルニ近年頗ル發展ノ氣運ニ向ヒ世人モ亦大聲疾呼シテ治水ノ急ヲ叫ビ砂防ノ要ヲ稱ヘツ、アリ即チ林業界ハ今ヤ漸ク多忙多事ヲ極メントシ開拓ニ整理ニ到ル處兄等ノ來テ新進ノ手腕ヲ試ミルヲ俟テルナリ、諸兄ノ前途何ゾ夫レ希望ニ滿テルヤ何ゾ夫レ責任ノ重大ナルヤ驪ツテ思フニ生等諸兄ト相共ニ提携スルコト茲ニ年アリ晨ニハ御岳ノ雪ヲ仰ギ夕ニハ木曾ノ流レニ俯シテ自然ノ美景ニ憧レ永久ノ神祕ニ我レヲ忘レテ語リシコトモ幾度ナリシゾ兄等ハ或ル時ハ疑義ヲ解キ忠告ヲ與フルノ先輩タリキ或ル時ハ徳性ノ涵養ト校風ノ振作トヲ鼓舞スルノ師友タリキ然ルニ今ヤ兄等ハ生等ヲ捨テ、四方ニ飛ビ去ラントスルナリ生等ノ悲痛如何ニゾヤ然リト雖モ諸兄ハ平素練磨セル學術技能ヲ初メテ實地ニ活用シ彼ノ盤根錯節ニ向ンテ兄等ガ懷抱セル犀利ナル武器ヲ試ムベキ時ニ際會セリ生等ハ今日諸兄ガ本校ノ眞價ヲ發揮スベク社會ノ戰場場裡ニ打ち出ヅル門出ナルヲ思ヒテ肯テ兒女ノ態ヲ學ブノ愚ヲナサジ只希クハ諸兄ヨリ假令山川萬里ヲ隔ツトモ永ク今日ノ情誼ヲ忘ル、ナク時ニ忠告ト訓戒トヲ寄セ生等後進ノ向フ所ヲ知ラシメヨ、生等モ亦兄等ガ遺セシ美風ヲ繼承シ兄等ガ箴言ニ則リ益々

校風ノ發揚ニ力メントスラバ行ク諸兄親愛ナル諸兄ヨリ永久ニ健全ナル幸福ナレ 大正二年三月二十五日 長野縣立木曾山林學校在校生總代 關 琴 義

答辭

謹ンデ啓ス生等何ソノ幸ゾヤ茲ニ全科卒業ノ榮ヲ得本日ヲ以テ壯嚴盛大ナル此ノ式典ノ場ニ列スルヲ得タリ。願フニ生等本校ニ入學以來三星霜ノ間資性ノ努鈍ナルニ拘ラズ竟ニ今日アルヲ得タルハ實ニ校長先生統督ノ嚴ナルト諸先生指導ノ切ナルトニ由ラサルハナク轉々師恩ノ高大ナルヲ嘆ゼズンバアラズ、今又知事閣下并ニ校長來賓諸君ノ懇切ナル訓辭ト在學生諸君ノ送辭トヲ忝ウシ生等感激ノ至リニ堪ヘズ 抑モ我ガ林業界ハ茫洋トシテ津涯ナク前途頗ル遼遠ニシテ而カモ險難多シ、生等不敏ト雖モ謹ミテ高論ヲ遵奉シ益々拮据勉勵ノ功ヲ積ミ本校ノ名譽ヲ發揚シ以テ聊カ多年薰陶ノ高恩ニ報イ今日ノ卒業ノ光榮ヲ空シクセザランコトヲ期ス謹ミテ卑衷ヲ陳ベ以テ答辭トナス 大正二年三月二十五日 長野縣立木曾山林學校 第十回卒業生總代 坂田勘太郎

第十回卒業生氏名及本籍(いろは順) 坂田勘太郎

Table with 2 columns: Name and Hometown. Includes names like 市川豊二, 長谷部真一, 原貴一, etc.

同 上 日野清亮
岐阜縣惠那郡 樋口徳夫
長野縣松本市 關谷静夫
(以上三十三名)

賞状受領者

一、學術優等品行方正實習勉勵により賞状を受けし者左記十名

卒業生 樋口徳夫

同 内田益治

同 家高甚一

同 久保田吾良

同 塚田大

同 九山岩吉

同 都竹武次郎

同 田中泰吉

同 伊藤正之助

同 田近善右衛門

一、三學年間級長として其責務を完うせるにより賞状を受けし者

卒業生 坂田勘太郎

一、品行方正衆生の模範たるにより賞状を受けし者

卒業生 細江七兵衛

一、皆勤により賞状を受けし者

三ヶ年間皆勤卒業生 成瀬義郎

同 長谷部真一

同 中島信敏

一ヶ年間皆勤同 細江七兵衛

同 坂田勘太郎

同 上 第二學年生 塚田吉雄
同 上 上 上 千村吉雄
同 上 上 上 原免修
同 上 上 上 佐藤光造
同 上 上 上 丸山岩吉
同 上 上 上 柳澤得衛
同 上 上 上 黒崎洋治
同 上 上 上 吉川真夫
同 上 上 上 篠田喜代平
同 上 上 上 伊藤嘉一
同 上 上 上 安井久吉
同 上 上 上 松川仲治
同 上 上 上 池田定雄
同 上 上 上 福澤博
同 上 上 上 野澤健吾
同 上 上 上 片岡坦
同 上 上 上 湯原俊文
同 上 上 上 唐澤文
同 上 上 上 高木先生及卒業生送別會 證書授與式後
校友會にては高木先生及卒業生の送別會を
開催せり關琴義君の開會の辭に次ぎて校長
先生北村先生及生徒数名の送別演説並に新
家先生安井書記の送別和歌朗詠あり高木先
生へは校友會より記念として銀時計一箇
(目錄)を進呈し之に對して先生の謙遜なる
答禮及訓話あり卒業生側にては坂田勘太郎
君一同を代表して感謝の辭を述べ午後四時
終了せり

生一同は校長及諸先生の臨席を乞ひ三學
教室に於て謝恩會を催し茶菓の間師弟打
寛ぎて離別の前の暫時の名残を惜みの
○始業式 四日一日舉行の筈なりしも福嶋
大火の爲三日迄臨時休業をなし四日午前九
時を以て舉行校長は前學年の成績及之に對
する注意、試験休中の出来事特に福嶋火災
に就ての所感今後の警戒及本學年度の計畫
方針に關し縷々訓諭せられ十時終了せり
○入學試験 本校入學試験は西筑摩郡を除
きて他府縣及他郡は悉く其地郡市役所に依
頼し四日執行の筈なりしが本校に於ても同
日本郡内の志願者に就て試験を執行し即日
終了せり
○入學式 本年度入學志望者は一府三縣に
亘り總數百八名に及びしが試験の結果入學
を許可せしもの左記六十四名にして四月十
五日右入學生に對し入學式を舉行せり午前
十時新舊生徒職員一同着席校長の勸語の捧
讀新入學生に對する訓辭及附送父兄に對する
希望演説あり第三年生齋藤海藏君舊生徒を
代表して迎辭を新入生總代加茂憲太郎君宣
誓の辭を夫々朗讀し是にて式を終へぬ
新入學生氏名及本籍地 (成績順)
岐阜縣 加茂憲太郎
松本市 川口勇次郎
上伊那郡 下平佐門
西筑摩郡 百瀬三一
下伊那郡 原正造
同 上 竹村節三

西筑摩郡 千村彌助
岐阜縣 矢島武六
西筑摩郡 古畑秋藏
下伊那郡 金子保一
岐阜縣 澤田富可
鳥取縣 森次潔
下伊那郡 熊谷清逸
西筑摩郡 吉村半治
同 上 千田政美
小縣郡 吉池芳治
上伊那郡 有賀正一
東筑摩郡 中川源太
下伊那郡 平田美則
西筑摩郡 原與一
下高井郡 丸山嘉一郎
下伊那郡 久保田邦治
西筑摩郡 奥村利一
岐阜縣 杉山良樹
更級郡 長谷部久雄
岐阜縣 古谷與六
三重縣 田垣萬造
岡山縣 千原昭夫
岐阜縣 柘植五郎
南安曇郡 等々力與八
岐阜縣 喜多村弘
同 上 田口由弘
西筑摩郡 村上安太郎
同 上 今井欽郎
同 上 宮川昌平
岐阜縣 加藤源一郎

西筑摩郡 石川縣 内海修一
西筑摩郡 開運隆飛登
同 上 今井武雄
同 上 大木仲次
岡山縣 梅村計介
岩手縣 生平邦成
南安曇郡 白井素慶次
上伊那郡 赤羽三郎
西筑摩郡 坂本光太郎
下伊那郡 佐々木久一
西筑摩郡 吉澤傳
東筑摩郡 宮下孝美
西筑摩郡 岡西猛
同 上 前野今朝次郎
同 上 古畑今朝茂
南安曇郡 竹内平一
西筑摩郡 武居喜太郎
同 上 市岡正茂
同 上 征矢與四雄
同 上 小原靜雄
同 上 大澤國男
栃木縣 藤井靜雄
西筑摩郡 山崎兵平
同 上 原治世
名古屋市 後藤林之助
西筑摩郡 小池茂樹

右の内、田垣萬造、金子保一、杉山良樹の三
名は入學式當日無斷缺席の爲入學を取消さ
(以上六十四名)
れ補欠として野本與一、森下義郎新井清美
の三名入學を許可せられたり
○林科學生の來校 三月二十九日東北大學
林學實科生二十七名は影山林學士指導の下
に關西地方旅行の途次本校を訪問せり時恰
も福嶋町大火の翌日にて學校も混亂中なり
しが安藤校長迎接の任に膺り校長室にて約
一時間許長野縣下特に木曾の林業一般に就
きて説明せられたり一行は當地に一泊の上
木曾の山林を観るべく小川方面に向へり越
えて四月十日盛岡高等農林學校林科生十九
名も亦石丸教授引率の下に關西地方旅行の
途次本校に立寄られたり依て校長は本校生
徒一同を講堂に集め林科生十九名を紹介し
本校との關係の年々密接に成り行く今日益
々交誼を厚うせん事を希望され彼我の生徒
總代亦同様の意を以て挨拶を述べたり當日
校長は石丸教授に對し本校生徒に何か講話
せられ度旨懇請せられしが長途の旅行に疲
れたると時間に餘裕なきとを以て辭退せら
れしは遺憾なりし
○實習 春風山野に逼りて草木一齊に芽
をふく頃殊に本校の苗圃、植物園など所謂
創業時代に屬するを以て多忙は一日より多
忙を極め來る乃ち四月五日實習を開始せ
られたるが各學年の分担事業大略左の如し
第三學年 模範苗圃開墾及地拵。苗木掘
取、選別、刈込及植付。試験苗圃地拵
區劃、播種事業。
第二學年 見本林の移植、造林地地拵、

候新家、林兩舎監は急を聞いて到着、善後の手配に就て種々協議され二三日中は舎内の整理に忙殺せられ候が其中舎生も追々歸舎致し舎内外の大掃除、障子張替、小破修繕、等を行ひ漸く目口が明き申候

○然るに又此處に困難の出来事が差起り候夫は今回の火事にて類焼せる西舎の家主が恰も其貸渡期限が三月限なるを以て西舎返却を歎願し來れる事にて此際強て借置くも情誼上忍び難く尙四月中旬に至れば新寄宿舍の一部竣工の見込有之候故断然返戻に決し四月二日西舎を明渡し西舎の者は一時東舎に引移り候

○時日は容赦なく進行し四月十五日新に入舎すべき者の豫定數四十五名を算へて而も新寄宿舍の工事の遅々たるには不少舎監先生の頭を悩まし申候此間問題は幾變遷致候が結局宮田工事監督と交渉して何でもかでも十五日迄に仕上ぐる事と致し當日目出度開舎文は致候も外部の硝子障子、廻轉窓の戸もなく風は吹き通しの有様に有之候是も火事の餘響にて已むを得ぬ事と辛抱致居候

○是より先即ち四月五日多難の際七宮先生は新に舎監となられ爾來日夜寄宿舍の事に就て賢慮を煩はされ居り候

○十五日には形ばかり食堂開の祝を行ひ新舊舎生一同新寄宿舍食堂に會食致し候因に當日の新入舎生は卅名に有之新寄宿舍に十一名舊寄宿舍に十九名收容致申候是にて漸く一安堵致候餘は五月號誌上にて可申上候

命ありたり

第三學年級主任	北村 教諭
第二學年級主任	嶋内 教諭
第一學年級主任	新家 教諭
第一學年級主任	林 教諭
第三學年級長	齋藤 海藏
副級長	塚田 大
第二學年級長	田近 善右衛門
副級長	東原 智
高木先生休職	三月三十一日附にて左の辭令を受けらる
命休職(給六級本俸)	高木 本枝
小林助手休職	明治四十四年本校卒業以來林業助手として忠實に其職を奉せし小林哲三氏は今回願に依り退職することとなれり三月二十七日附左の通り
依願解職(給月俸十五圓)	小林 哲三

四名の爲に送別會を開催致候舎生及新家、會監の送別の辭に次ぎて卒業生の答辭あり茶菓壽司の饗に過去を忍び將來を語り名残は盡きず最後に蓄音器の餘興ありて閉會したは八時半頃にて候ひき

○三月廿五日舎生の一部は證書授與式を済して忽々歸省せし者も有之候ひしか多くは廿六日に歸省し殘留者十六名は分舎にて自炊する事と相成本舎は廿六日限閉舎致候

○然るに此處に思ひ設けぬ一大事件こそ出現致候即ち廿八日午後九時向城町齋藤氏留守宅より突發せる火事を見す、百餘戸を燒き盡し殆向城の全部を燒土と化した事事件にて之が爲類焼の厄に罹られたるは職員側にて七宮、北村、島内、征矢野四先生に有之寄宿舍分舎も遂に類焼致候去名の諸君は火事と聞きて最初夫々右職員方の居室に駆けつけ盡力致居候處分舎本舎も漸く危急に迫り候故走せ還りて消防に力め分舎は勿論本舎の荷物一切を搬出し避難せしめ候職員側にては新家林二先生は不在其他は類焼にあらざれば近火と云ふ有様に相互救助するに由なく候處只一人校長先生宅は少しく遠隔の故を以て各職員宅に救援に赴かれ特に分舎生十六名を督し分舎本舎の荷物搬出に全力を注がれ候爲に分舎の荷物行李等は殆一物をも焼失せず候ひき本舎は幸うじて危難を免れ候へ共書籍行李其他搬出の際破損又は紛失し損害尠からず翌日分舎生は搬出せる荷物を更に運び入れ大体の整理をな

校友消息

寄宿舎便り

○本年の卒業生にして逸早くも奉職し若しくは奉職口の決定せし者左の如し

長野縣廳林務課 久保田 吾良君

全 上 渡邊 知則君

秋田大林區署管内角館小林區署 田中 榮一君

全 上 扇田小林區署 長谷部 眞一君

高知大林區署 坂田 勘太郎君

全 上 成瀬 義郎君

廣嶋大林區署管内三原小林區署 古畑 七三君

長野大林區署 大久保 五成君

木曾支廳場所付雇 樋口 徳一君

全 上 家 高 甚一君

全 上 細 江 七兵衛君

此外代田文之助君は本校林業夫として四月十七日來校爾來實習の監督手傳をなすつあり

○本校第七回卒業生宮澤清輔君は現に盛岡高等農林學校林科二年生なるが今回成績優等の故を以て特待生に選拔せられたり同君の名譽は更にも云はず亦我校の光榮として肩身の廣きを覺ゆ先般同校林科生の本校を訪問せし際校長の言及せられし本校卒業生とは即同君の事なり

○小松精内君は今回諏訪郡林業技手に轉ト

林恒君は新に長野縣林業技手に任せられたり(以上雜報子)

○同窓の會合 都よりは梅の音信を聞く昨日今日なれど未だ、霞薄く、風訝ゆる木曾の三月は、家の陰に雪も残つて居る、其寒空の火燧よりもなつかしいのは師の恩だ、共に學んだ朋友の情だ、他郷に出て未知の人許りの中で同窓に逢つた時は兄弟のように思ふ」と誰やらが云ふた氣持は知る人ぞ知る。

折が有つたら皆寄て昔語りがして見度い一日の過去には一日の想化がある、學校を出て三年五年を経た今日となれば、善かれ悪しかれ昔語り何の罪も恨もない、只美しい追懐がある許り、喧嘩して居ても兄弟は別れるとなつかしいのが人の情だ、看守のように見へた舎監先生でも、冷酷鬼のように思つた實習の監督先生、眼玉の氣味悪く光る校長先生でも、今となつて逢へば別れた親に廻り逢つたやうな氣持になつて、今更ら不孝の子を持つた親の心を考へて見る。

師弟の間、學友の間、其所に云ひ知れぬ一種の温情が流れて居るではないか、折があつたら!! 折があつたら!!

と之れが御互の胸の中だ、しかも其折は決して尠くない、今迄も時々此希望は満たされた、近く此一月も長野市で蘇門會と稱して高樋氏の盡力の下に催された、其所に出席し得なかつた吾々の爲めに今また其機會が來たのである、忙しい世の中ではあ

側根

○三月廿三日夜西舎樓上にて高木舎監の送別茶話會を催し候舎生數氏及新家舎監の送別の辭あり舎生一同よりは紀念として茶器一組を贈呈し高木先生の挨拶ありて閉會致候同先生は明治四十一年以來舎監として舎生と起臥を同トし其監督撫育に盡瘁せらるゝ事正に五年功勞實に不尠今先生を送るに臨み誠に惜別の情に堪へざる次第にて候

○三月廿四日夜は舎生にして卒業する廿

同上想に集つた諸氏は左の二十名

- 大森 久治君 宮下 信一君
- 野知里慶助君 千村 重喜君
- 水野 忠一君 市川 潔君
- 小林 恭市君 新井喜多雄君
- 武居 文策君 奥原吉右衛門君
- 洞山鹿之助君
- 蜂須賀宮次郎君 寺嶋 俊一君
- 塚本 三樹君 吉村金次郎君
- 小林 哲三君 芦澤 庸三君
- 丸山 久雄君 北川 信美君
- 川崎 本雄君

流石に林業に縁ある木曾の谷、母校所在地である、地の利を占めたるだけであつて、稍々盛んなる事を得たのみならず、母校職員全部の賛成を得て、名を校友會特別會員の懇親會とした、例の通り恩師松田力能氏の臨席は勿論である、他に客として學校創立以來の小使手塚善吉君、今月限り辭して長野に去らるゝに就き、好機を利用して送別の意を表することにした。

見晴の玄關で、劈頭に發する聲は二様に「ヤア！」
「ヨウ！」
である、中には一年遠位で在寮して居たのに、互に顔を見違へて、傍からの注意に漸く、
「ヤア！君だつたか、手紙では何日も往復して居ても、併し無理もない、卒業後絶もないものだ、併し無理もない、卒業後絶

へて逢はぬこと七年だと云ふ。

午後七時と云ふに、一同着席する、ズツト見廻すと、何れも澄して居るが、スタイルは種々様々である、堂々として女中に先生と間違へられそうなる人、大正五年位の素適なハエカラ、立派か如何かは問題だが、殿めしうに八字鬚を蓄へた顔、商人らしい態度の人の中ニハ被布姿の變つたものもある、松田先生の提案で順次に、吾こそはと上げた名のりを聞くと、帝國林野管理局何々と入つて居るのが最も多い、中で振つてるのを紹介すると、妻君は数日前迎へた許りでずと嬉しそうな顔したのは奥原君、樹木を植栽しない代りに齒の植栽をやつてる云ふたは齒醫者の宮下君、妻君所でない小供がある肩を聳かしたは確か大森君と水野君、其他に妻君の廣告の有たは職員で征矢野氏が此頃更新した許りでニッコリした、卒業生中大部分は無妻であると云ふたのは、藝者や女中の手前故、色氣を出して秘した譯でもないらしく、確かに若い連中が多かつた、松田先生が老婆親切から、卒業生にして二十四五才に達した者は、なる可く速かに結婚するがよいと後から教訓の追加をやられたのは無理もない。私は明治何年に來まして、と職員の名のりが上る例に依つて腰折れを一つも立ち上つたは安井老人、

末はみなくも登る人どちと

くみつゝかたる今日の嬉しさ
と、何日もの調子を以て安井式を發揮した松田先生が學校創立以來の歴史から始めて、老父の子供に誨ゆる如き教訓、安藤校長の卒業生に對する希望等を述べらるゝあり、此處にも彼處にも、歡談湧いて止まざる其後數時間の光景は、斯くあるべしと豫期したる通りで、吾々が常に想像する光景が最も忠實な記録と一致して居る。
松田先生と安藤校長の萬歳、朋上げて、充分満足して別れたのは午後十時三十分頃であつた、此會ありしは、宮下君 市川君 蜂須賀君、塚本君等の發起と盡力とに依ること頗る大、深く其勞を謝すると共に地の利を占めたる此地に於て、時々得らるゝ機會を逃さざる爲め、又機會を作らむが爲めに、校友會特別會員諸氏の賛成を得て一つの會を設けむ事は、吾等の希望し計劃しつゝある所である、長野市に蘇門會あり、甲府に蘇峽會あり、木曾の地に如斯會の無きは遺憾至極である、切に諸氏の贊助を望む出席者諸氏殊に遠路を參集せられたる諸氏に謝し、併せて、出席し能はざりし諸氏の爲めにせめて當夜を愾ぶ一端にもと、禿筆を呵して報すること如斯、(素面生報)

和歌
述懷 安井正夫

さげにるひ花にるひつゝ暮すころたのしきことのきはみなりけれ

驚 馴

わがしたふ心をなれもくみつらん軒ばはなれず驚のなく

夢 鶴

まふたづのかげものどかに見し夢はさむるもをしき心地こそすれ

上の山田田の花見にまかりてこの宿は花のみならで月雪のながめかしきところなりけり

饒高木先生二首

新井園 面

麻ざるも木曾のやま住み年をへてなれにし人に今日やわかれん
ふるさとのくぬぎの眞柴をりくべて君と語らん木曾の山住み

卒業生送別二首

久方の月のかつらを折りしとて世のうき雲にこゝろゆるすな
學びやの名をもあぐべきますらをの今日の間出をなにか歎かん

京城本多君に申す先般御送附の京城便り本號に掲載の筈の處記事輻湊已を得ず來月に廻し候間右御承知を乞ふ 編輯係

雜報

文明病と樹木

某理學博士談

▲樹木の枯死 近來都市に於て大樹巨木が頻々として枯死するのであるがこれが枯死に付きては十中八九煤煙の影響であると云はれて居るが果して然うであらうか素より斯る結果は餘程慎重な研究を積んだ後でなければ容易に判斷出來ないが然かし樹木枯死の多くが年々増加する工場の煤煙に由る殊に老樹萎弱として茂つて居つた上野が近年著しく其風致を害し巨木陸續として枯死するに至るのは上野停車場より噴き出す黒煙に原因することは萬人の認むる處である然し幾百年も生長した樹木が急遽枯死するのは單に黒煙と云へる外的原因のみに依るのであらうか

▲疾病と人体 一体我々人間が病氣に犯さるゝは唯ベスト菌チブス菌の襲來のみに依るのであらうかもし然うとすれば家族中に一人の罹者ありとすれば他は皆病氣に犯されざるを得ない道理であるが實際斯の如き結果を見ないのを見るも必らずしも然うではないやうである即ち我々人間は常にベスト菌やチブス菌を吸収して居るにも拘らず其れがために病氣とならぬのは畢竟身体が健康であるからであるだからもし身体の一部に支障を起し病魔の侵入すべき餘地を拵へる事となれば茲に初めて病氣に襲はるゝ事となるのである

外ならぬ煤煙素を樹木を害するものであるが健康を害して居るからである營業が充分豊かに行届いて居る以上は外部より少少の刺激を與へても左程影響するのではないのである處が都會地に於ける樹木の附近は砂礫を布き込み其方幼根の周圍には人馬や荷馬で踏み付けるから自然と土地は固くなるので地中より營養分を吸収せんとしても取ることとは出來ないゆゑに市街は立派となり雨水の流通路は溝より土管となり鐵管となり雨水の爲めに灌漑を善くして乾燥せしむるので濕潤地は次第に減少する河川も自然の儘にして置けば充分土地を濕すことが出来るが今日のやうに徒に石垣を築いて川幅を狭くするやうでは雷に洪水を誘致する虞れあるのみではない樹木の成長の爲めに至極宜しくないと思ふ

▲杉椏は不適當 樹木の成長にはいろいろ事情があるから一概には行かぬが杉や椏やは單獨には成長し難い恰かも羊が群をなして居るやうに幾千本となく同種類のもものが同棲して初めて發育が出来るので六七本離して植ゑるとしても永く其壽命を保つものではない谷合などのジブ／＼した濕氣地で空氣は孰れかと云へば餘り流通のよくない朝夕霞の籠むやうな土地が最も適當であるだから市街地に植ゆる樹木は動物で云へば獅子の如く單獨に成長の出來るものを撰ばねばならぬ従つて杉椏椏の如きは市街地に植ゆれば必らず枯死するのである

○去月廿八日福嶋町大火の節早速學

は校友會宛見舞狀を寄せられたる芳名左の如し茲に謹んで感謝の意を表す

小松吉次郎殿

河野 長六殿

高木 本枝殿

武久 貞一殿

遠藤治一郎殿

神作 四郎殿

澤柳友一郎殿

金田 美行殿

西澤 静人殿

古宮 政由殿

柳原一二三殿

江畑献三允殿

金井 澄水殿

小谷 益實殿

杉本 貢殿

高野 商會殿

伊藤政太郎殿

代田文之助殿

岩瀬八右衛門殿

吉田佐十郎殿

小坂 梅吉殿

宮城 忠藏殿

伊藤 さん殿

○右の外分會及職員方に於て類焼の旨聞及ばれ見舞金を寄せられたる諸彦左の如し謹んで感謝の意を表す

長野縣林務課

西澤 静人殿

金壹圓

同

高樋 博殿

金五圓

東北大學教授影山林學士外十九名殿

金五圓

愛知縣立安城農林學校林科生一同殿

稟告

多年本等並に本會の爲盡瘁せられ小松先生は昨年七月熊本縣珠磨農學校へ御榮轉被成候に就

ては聊同先生の功勞に酬ゆる爲記念品贈呈致度有志の諸君は左記御含みの上應分の御寄附相成度此段得貴意候也

一、御送金は振替東京一七六〇

○校長安藤時雄宛の事

一、期限は本年六月十日迄の事

一、御送金額及芳名は本誌に掲載し別に請取證は差上げざる事

以上

大正二年四月

木曾山林學校々友會

稟告

多年本校並に本會の爲盡瘁せられし高木先生は今般家事上の御都合に依り三月限退職被致候に就ては聊同先生の功勞に酬ゆる爲記念品贈呈致度有志の諸君は左記御含の上應分の御寄附相成度此段得貴意候也

一、送金は振替東京一七六〇

番校長安藤時雄宛の事

大正二年四月

木曾山林學校々友會

一、期限は本年七月十日迄
一、御送金額及芳名は本誌に掲載し別に請取證は差上ざる事

大正二年四月

木曾山林學校々友會

會費領收報告

金壹圓

金八拾錢(大正二年迄)

柳澤 熊治君

小松先生へ寄贈金

吉田佐十郎君

宮川 永三君

金五十錢

吉田佐十郎君

緊急廣告

來る五月三日校友會總會開催致候間會員諸君は萬障御差繰御出席相成度此段及廣告候也

大正二年四月

校友會